

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4095100030		
法人名	社会福祉法人 日本傷痍者更生会		
事業所名	グループホーム更生会にじの郷		
所在地	福岡県遠賀郡岡垣町中央台3-22-1 (電話) 093-282-5720		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 15 日	評価結果確定日	令和 4 年 4 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

海と山が美しく自然あふれる、岡垣町にて事業を運営しております。広い敷地内に介護老人保健施設や保育園を併設した複合施設です。玄関ポーチにはベンチと季節の草花をお置き、玄関内はご家族様との面会場所とし、ご利用者様と職員と一緒に制作した作品を掲示して観覧頂いております。またホーム横の小さな砂場は保育園の園児達がお天気の良い日に遊びに来て砂遊びをしたり、入居者様と日向ぼっこをしながら直接触れ合ったりと、笑顔あふれるひとときを過ごして頂いております。現在は感染症の影響から地域の行事参加やグループホームでの交流は控えておりますが、廃品回収と子ども見守り隊のお手伝いをさせて頂き地域の一員として共に支え合う関係性作りに努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www. kai gokensaku. jp/
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 18 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームのそばに公民館などがあり、清掃などの地域活動に参加し、地域交流を大事にしている。2ユニットの利用者18名は地域の夏祭り、敬老会などの行事に参加している。又、敷地内の介護老人保健施設との交流行事や保育園児とのふれあいの機会が作られている。利用者の希望を大事にする「夢かなえようプロジェクト」に職員全体で取り組み、利用者の思いを大事にする工夫や取り組みがみられる。防災訓練の実施や非常時の備蓄の体制もできている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームが目指す地域密着型サービス事業所の理念を掲げ、毎朝の申し送り時に、出勤者全員で唱和し、理念の意義と目的を理解しグループホームだから出来る介護の実践に取り組み、職員はご利用者様一人ひとりに寄り添い時間をかけて丁寧に支援していくことを目指している。	グループホームの理念は「一人ひとりが住み慣れた地域の中で共に支えあい、自分らしく生活できる支援」とされ、毎朝、職員は唱和して、地域密着を踏まえた理念の意識づけがされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は感染症の影響から、地域行事への参加やグループホーム開催の行事へお招きする事は控えている為、交流の頻度は減っているが、地域の清掃活動や廃品回収、子ども見守り隊のお手伝いをさせて頂く事で繋がりを持っている。	地域交流を目指していて、自治会に加入し、地域の清掃や廃品回収事業に取り組んでいる。コロナ禍前は、地域の夏祭りに参加したり、グループホーム主催の花火大会にも地域の人に参加していただいていた。中学、高校生にも実習に参加してもらう機会があった。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の影響から地域の方への見学会は中止としているが、新開設事業所の交流スペースを利用した支援を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月毎に年6回開催し、ホームの運営や取り組み、課題や事故等を報告し、参加委員からは意見や要望等を提案してもらい活発な意見交換を行っている。出された意見や要望を検討し、ホームの運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。	通常は2ヶ月に1回運営推進会議が開催されていたが、コロナ禍のため、多くは書面協議になっている。内容はグループホームの運営状況や個別事例が出されている。運営推進会議での提案として、冬季入浴でのヒートショック防止のために暖房器具の配置などが検討された。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの実情を理解した上で意見や情報を提案してもらい、協力関係を築いている。また、管理者はホームの空き状況や介護の疑問点、困難事例や事故等を行政に相談しアドバイスを受けたり、情報交換を行い連携を図っている。	行政とは徘徊SOSネットワークや災害時対応等のために日頃から関係部局と連携を行っている。また、グループホームから困難事例での相談等がされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一法人事業所と合同で身体拘束廃止委員会を開催し、具体的な禁止行為について、事例を挙げて検証し、職員は身体拘束が利用者に与える影響や弊害について理解している。また職員間で話し合い、言葉使いや対応についても注意している。玄関は日中施錠せず、職員の見守りでご利用者が自由に出入りしている。	出入り口や玄関に日中は施錠をしていない。身体拘束廃止委員会があり、定期的に職員間での点検や話し合い、身体拘束防止についての研修がされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人研修や委員会で高齢者虐待防止について取り上げ理解を深めている。対応している事が身体拘束や虐待にあたらぬか検討している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度についての内部研修を行い、職員への周知を図っている。制度に関する資料やパンフレットを用意して、ご利用者やご家族から相談があればいつでも支援できる体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らない為の支援に取り組んでいる。現在、成年後見制度活用のご利用者がいるので、職員は制度についてある程度理解できている。	全職員に対して権利擁護に関する研修が行われている。入所時に家族に制度について説明している。成年後見制度を活用されている利用者がおられ、介護計画の協議や同意などで後見人の協力を得ている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族の見学は常時受け付けており、契約時には口頭及び書面での十分な説明を行い、同意の上で契約頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡にて、職員がご家族とコミュニケーションを取りながら、ご利用者の近況や健康状態を報告し、ご家族の要望や苦情、心配事を聞き取り、ご利用者の介護計画作成や、ホームの運営に反映出来るように取り組んでいる。玄関に意見箱を設置し、外部の苦情相談窓口を掲示して、何時でも意見や要望が言える環境を整えている。	担当職員が、利用者から意見などを聞く体制がある。また、利用者家族が2名運営推進会議のメンバーである。家族に生活や活動に対する意見をいただいている。花見やミカン狩りなどの外出や買い物希望があり、実現できるよう支援している。意見箱を設置している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し職員の意見や要望が気軽に言える雰囲気の中で、活発な意見交換が行われ、出された意見や要望がホームの運営や業務に活かされるように努力している。また、朝夕の申し送り時に、職員の気付きや、心配事を話し合い、管理者に相談し速やかに解決に向けて取り組んでいる。	運営に関して職員からの提案があり、オンラインでの会議や研修が開催されている。また、段差の解消や転倒防止策、薬の保管方法など利用者の安全な生活に対する提案が職員からなされ、反映させるよう努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを取り入れ、各自が目標とそれに合わせた計画を立て、達成できるように一緒に考えている。また、努力や実績に応じた給与と体制である人事考課制度を導入している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は、年齢、性別、資格等の制限は無く、人柄や働く意欲を優先している。 休憩時間や勤務体制、希望休に柔軟に配慮し、産休や育休体制も取り入れ、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。 また、職員の外部研修参加を積極的に奨励し、資格取得の為のバックアップも整えている。	採用選考では男女の差別はしていない。年齢による差別もしていない。高齢で長く働いている方もいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加した職員が勉強会の中で報告し、職員間でご利用者の人権を尊重する介護の在り方を話し合い、ホームの中でご利用者が安心して穏やかに過ごせる支援に取り組んでいる。 また、職員は理念を常に意識し理念に基づいた、ご利用者の尊厳を守るケアの実践に取り組んでいる。	法人内に接遇委員会と人材育成委員会があり、職員主導でそれぞれ人権を尊重する研修企画や新しい職員への育成指導がされている。職員が主体となって、利用者の人権尊重の研修などが定期的に行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームから毎月1名、人材育成委員会に参加しており、職員を育てる取り組みに努めている。 また、法人内外の研修を活用し、知識や技術の習得が出来るようスキルアップの機会を設けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム全国にオンラインにて参加し、他事業の取り組みや災害時や感染症発生時の対応について学ぶ事が出来た。 また、介護支援専門員の更新研修を受講し、意見交換、資質の向上を図った。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から傾聴には気を配り、入居前にはご本人やご家族とゆっくり話せる時間を設け、不安の解消と要望の把握、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員、計画作成者が入居に至る経緯、介護の苦勞を受け止め、ご家族が抱えている不安や要望等に耳を傾けて、想いを反映させることで関係性の構築に努めている。 また、必要に応じて、負担の少ない範囲内での支援協力をお願いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	ご本人の状態やご家族の要望に合わせて、 グループホーム内だけのサービスとは限 らず、訪問歯科や、訪問診療、訪問介護も 利用しており、ご利用者一人ひとりのニ ーズに合わせて対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	現有機能を活用して頂くことにより、ご本 人の意欲や活動量を高められるよう支援し ている。長年の生活で培った経験・知識を活 かし、自分らしく生活して頂けるととも に、活躍の場を持って頂く事で双方の関係 性が構築できるよう意識している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	ご家族との連絡を密にする事で、状況を理 解して頂き、共に支え合う関係性作りに努 めている。病院受診に関しても、ご家族に 協力依頼し出来ない部分を職員がサポート している。ご本人にとって、一番の心の支 えはご家族である事を伝え、病院受診等も 含めご家族と過ごす時間を、少しでも多く 取って頂けるよう依頼している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	感染症の影響から面会時の条件を付けてい る為頻度は減っているが、利用者が長年築 いてきた人間関係や、地域社会との関わり が途切れないよう友人、知人の面会時 には、ご家族の理解を得てゆっくり話しが 出来るよう配慮している。次回訪問しやす い雰囲気作りを心掛け、また来て頂くよ うにお願いしている。	職員は入所時に利用者の馴染みの人や場所 を聞き取っている。また、担当制で日常 的に利用者から聞き取って、訪問を呼び掛 けたり、手紙や電話で交流の継続を支援し ている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係を把握し、共通の話題や レクリエーション活動を通じて交流をサ ポートしている。 また、お互いに認め合えるような関係性 の構築が出来るよう取り組んでいる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退去後も施設や病院等に面会に行ってい る。必要に応じて相談や支援を行い、ご本 人やご家族との関係が途切れないよう取 組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員はアセスメントを活用し、ご利用者の日常生活の中から思いや意向を把握し、ご家族や関係者と話し合い、ご利用者の思いが実現出来るよう取り組んでいる。また、意向表出が難しいご利用者にも職員はあきらめずに寄り添い話しかけ、表情や仕草を観察しながら、ご利用者の思いを汲み取っている。	入居時に、利用者や家族、在宅時のケアマネジャー等からの情報提供をもとにアセスメントを行い、介護計画等に「暮らしの希望や意向」を盛り込んでいる。具体的な対応については、日々職員間で共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、入居前の施設や事業所から多く情報を収集し、入居後のケアに活かせるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや食事量、行動の記録を行い、希望を踏まえたその方らしい過ごし方が出来るよう職員間で検討し工夫している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の意見や要望、心配事を聞き取り、担当者会議を開き職員間で話し合い、ご利用者本位の介護計画を3カ月毎に作成している。また介護計画の実施状況や目標達成状況を定期的に確認し、その結果を踏まえて介護計画の見直しをその都度行っている。	介護計画は、利用者一人ひとりの状況に応じた個別具体的な計画を作成しており、3～6か月毎に関係者間で検討され見直しが行われている。作成された介護計画は、利用者、家族の同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の生活の様子やご利用者同士の関わり方等を個別に記録し、ケアの工夫や見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を伺いながら、一人ひとりに応じた受診、訪問歯科等個々のニーズに柔軟に対応できる支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の影響から、屋内での地域行事やボランティアの来訪は現在控えているが、屋外での廃品回収や清掃活動、子ども見守り隊に参加し地域の方々と交流している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族と話し合い馴染みのかかりつけ医の受診を優先し、職員が病院に同行して、結果をご家族に伝えている。また、緊急時の医療機関の搬送や眼科・整形外科・精神科等の受診にも職員が同行、状況によりご家族の同行も協力を得ながら、充実した医療連携が図られている。	かかりつけ医は、利用者及び家族が選択可能となっている。訪問看護、歯科診療等も定期的実施されている。日頃の健康管理から緊急時の対応等、提携医との医療連携や受診支援体制がとられている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	遠賀中間医師会の訪問看護ステーションと契約し週1回の訪問と、必要に応じて処置や、緊急時の医療機関への搬送の指示を仰ぐ等、ご利用者が適切な看護を受けられるよう365日24時間、密接に情報共有し、連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に詳しい情報を提供し、病院との連携を図っている。入院中にもソーシャルワーカーや看護師から経過を聞き、把握できるよう努めている。また、退院前のカンファレンスに可能な限り参加しホームでの生活に繋げている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて契約時に、ご家族に希望を聞き取り、ホームで出来る支援と、病院でしか出来ない支援を説明し、承諾を得ている。ご利用者の急変や重度化に合わせ、ご家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を確認し、職員間で方針を共有し、ご利用者が安心して終末期を過ごせる環境を整えている。	重度化や終末期については、早い段階から利用者、家族と協議し、ケアのあり方や支援方法等、関係者を交えて検討されている。看とりについては、明文化された指針をもとにマニュアル等が作成され、研修やミーティングを通じて、職員間で共有されている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加し、急変時や事故発生時の対応に困感しないように努めている。ホーム内にAEDも常備している。また、マニュアルを整備し発生時に備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2カ月毎に災害対策委員会を中心に自主防災訓練を実施して昼夜想定を繰り返し、夜間2人の夜勤者が18人のご利用者全員を安全に避難場所に誘導出来るように取り組んでいる。	火災、地震、台風等の災害訓練は昼夜想定 の避難訓練も含め2ヶ月に1度の頻度で実施されている。併設の介護老人保健施設等と連携した総合防災訓練も定期的 に実施されている。非常用の食品、飲料水、備品等はリスト化され適切に保管されている。コロナの収束後、地域の協力、参加を得るべく運営推進会議等を通じて働きかけるようにしている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護委員会の内部研修に参加し、個人情報保護法や職員の守秘義務についても、職員一人ひとりが理解し周知徹底が図られている。ご利用者の個性や生活習慣に合わせたケアの実践に取り組んでいる。	法人での権利擁護委員会において、利用者のプライバシー保護や個人情報保護等について定期的な研修の機会がある。管理者と職員は、日々のケアの場面で言葉かけ等、利用者の尊厳等についての共通理解が得られている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との関わりの中で希望や想いを聞き、日常生活の様々な場面で自己決定できるよう支援している。 また、自己決定しやすい雰囲気作りに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの希望やペースを大切にし、拒否された場合でも無理強いすることなく、ご利用者様の体調や気分に合わせて支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室の洗面台に椅子を置き、ご自分で整容出来るようにしており、常時保温機械で温めているホットタオルで顔を拭いて頂いている。 また、なるべくご本人の好みで服を選んで頂くよう努めている。 訪問理美容を利用しカットや顔剃り、カラーリングをされる方もおられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が話し合って献立を作成し、肉、魚、野菜等新鮮な食材を発注、又は毎日購入している。週1回のお弁当の日や、ご利用者から食べたいメニューのご希望を聞き、献立に入れご利用者が、食事を楽しめる支援に取り組んでいる。	職員の手作りで食事が提供され、利用者の状態に応じた形態や食べ易さ等に配慮されている。おやつ、誕生日や行事食等は利用者のリクエストによるものが提供されている。利用者と職員が家庭的な雰囲気の中で一緒になって食事が楽しめる支援が行われている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を記録し、こまめな水分補給を行っている。その日の体調に合わせて、食事形態を変更する等臨機応変に対応している。また、食事摂取量が低下した場合、訪問看護へ相談や、必要に応じてかかりつけ医にも相談し受診支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、その方の状態に応じて見守りや介助を行っている。夜間は義歯洗浄を実施している。また、必要に応じて訪問歯科を依頼している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄やおムツを使用しないで済む暮らしはご利用者の生きる力を引き出すと捉え、生活パターンや生活習慣を把握し、タイミング良く声掛けして、さりげなく誘導を行い、トイレでの自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。また、オムツ・リハビリパンツ・パッドの種類をご利用者に合わせて使い分け、使用量の軽減を目指している。	排泄パターンや生活習慣等に基づき、一人ひとりの自立に向けた排泄支援を行っている。また、法人とも連携し、サービス向上委員会でオムツやパットなどの軽減等への検討が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた献立の作成を心掛けている。散歩や体操等体を動かす事で、スムーズな排便を促している。排泄サインを見逃さず、誘導を行い排泄の失敗と不快感の軽減を図り、パッド等の使用量の削減も目指している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日週7回、午前中を基本としているが、ご利用者の希望や体調に合わせて午後から入って頂く等、湯船にゆっくり浸かってもらい、楽しい入浴になるように取り組んでいる。入浴を拒むご利用者には、時間をずらしたり、職員が交代してタイミングを見て声掛けし、無理な場合は足浴や清拭に変更して、清潔保持に努めている。	入浴は週2回以上を基本としているが、毎日の入浴も可能である。季節に応じて入浴時間帯は柔軟な対応がとられている。また、脱衣場のヒートショック予防や入浴後の保湿ケア等の支援が行われている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者一人ひとりの状態に応じて、午前・午後に休息の時間を取りれている。夜間眠れない時はお話しをしたり、温かい飲み物を提供したり、側に付き添い安心して休んで頂けるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬は管理させて頂いている。個人別に何をいつ服用しているか分かるよう一覧にしておき、職員が随時確認できるようにしている。また、薬の変更があった場合等には、申し送りノートに記入し職員間で情報を共有している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や個々にあった家事活動を通して、楽しく生活出来るよう支援している。また、ご家族の協力を得て嗜好品の提供や、ご本人の要望をお聞きして職員が代行購入している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日はホーム周辺の散歩をして頂いたり、季節毎の花見ドライブで気分転換を図っている。グループホームの取り組み「夢かなえようプロジェクト」は現在感染症の影響で中止しているが、今後は状況に合わせて再開を検討している。	コロナ禍のため、ホーム周辺の散策やドライブ等を実施している。従前は季節の行事や買い物、外食他等外出支援は活発に行われていた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルに繋がらないよう、事務所にて出納長の管理を行っている。必要な物があれば、預かり金の中から買い物支援をさせて頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と電話でお話しをして頂いたり、お手紙やハガキを書かれた際はお預かりし、ご家族の面会時にお渡しをしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が1日の大半を過ごすリビングルームは音や照明、温度や湿度、換気に注意し、仲の良いご利用者同士が談笑したり、職員と一緒にゲームや手芸、作品作り等に取り組んで頂いている。天窓からは明るい日差しが差し込み、穏やかでアットホームな雰囲気居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	共用の空間は、天井が高く開放的で、各ユニット間の行き来も自由で一体感がある。コロナ禍でのストレス解消のため、リビングでのアクティビティやゲーム等の支援が活発に行われている。また、職員から既存の木製デッキの有効活用を図る計画が提案されており、利用者と職員の手作り「憩いのサロン」の実現が待たれる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の日中の過ごし方を顧慮し、リビングにソファや長椅子を配置し、気の合う方同士の談笑の場となっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご利用者やご家族と話し合い、馴染みのある筆筒や机、椅子や家族の写真等、大切な物を持ち込んで頂き、ご利用者が安心して、穏やかな気持ちで過ごせるよう、支援に取り組んでいる。居室内にはトイレと洗面台、クローゼットを設置し、ご利用者のプライバシーに配慮している。	居室は、利用者が家族と相談して、使い慣れたものや写真などが持ち込まれている。部屋は手洗い、トイレ、クローゼット、ベット、エアコンが備え付けられ、清潔な居室環境である。一人ひとりの個性を活かした部屋づくりとなっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の生活動線に合わせ、居室・トイレ・浴室に手すりを増設する等、安全に移動できるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームが目指す地域密着型サービス事業所の理念を掲げ、毎朝の申し送り時に、出勤者全員で唱和し、理念の意義と目的を理解しグループホームだから出来る介護の実践に取り組み、職員はご利用者様一人ひとりに寄り添い時間をかけて丁寧に支援していくことを目指している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は感染症の影響から、地域行事への参加やグループホーム開催の行事へお招きする事は控えている為、交流の頻度は減っているが、地域の清掃活動や廃品回収、子ども見守り隊のお手伝いをさせて頂く事で繋がりを持っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の影響から地域の方への見学会は中止としているが、新開設事業所の交流スペースを利用した支援を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月毎に年6回開催し、ホームの運営や取り組み、課題や事故等を報告し、参加委員からは意見や要望等を提案してもらい活発な意見交換を行っている。出された意見や要望を検討し、ホームの運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの実情を理解した上で意見や情報を提案してもらい、協力関係を築いている。また、管理者はホームの空き状況や介護の疑問点、困難事例や事故等を行政に相談しアドバイスを受けたり、情報交換を行い連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一法人事業所と合同で身体拘束廃止委員会を開催し、具体的な禁止行為について、事例を挙げて検証し、職員は身体拘束が利用者にも与える影響や弊害について理解している。また職員間で話し合い、言葉使いや対応についても注意している。玄関は日中施錠せず、職員の見守りでご利用者が自由に出入りしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人研修や委員会で高齢者虐待防止について取り上げ理解を深めている。対応している事が身体拘束や虐待にあたらぬか検討している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度についての内部研修を行い、職員への周知を図っている。制度に関する資料やパンフレットを用意して、ご利用者やご家族から相談があればいつでも支援できる体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らない為の支援に取り組んでいる。現在、成年後見制度活用のご利用者があるので、職員は制度についてある程度理解できている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族の見学は常時受け付けており、契約時には口頭及び書面での十分な説明を行い、同意の上で契約頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡にて、職員がご家族とコミュニケーションを取りながら、ご利用者の近況や健康状態を報告し、ご家族の要望や苦情、心配事を聞き取り、ご利用者の介護計画作成や、ホームの運営に反映出来るように取り組んでいる。玄関に意見箱を設置し、外部の苦情相談窓口を掲示して、何時でも意見や要望が言える環境を整えている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し職員の意見や要望が気軽に言える雰囲気の中で、活発な意見交換が行われ、出された意見や要望がホームの運営や業務に活かされるように努力している。また、朝夕の申し送り時に、職員の気付きや、心配事を話し合い、管理者に相談し速やかに解決に向けて取り組んでいる。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを取り入れ、各自が目標とそれに合わせた計画を立て、達成できるように一緒に考えている。また、努力や実績に応じた給与体制である人事考課制度を導入している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は、年齢、性別、資格等の制限は無く、人柄や働く意欲を優先している。休憩時間や勤務体制、希望休に柔軟に配慮し、産休や育休体制も取り入れ、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。また、職員の外部研修参加を積極的に奨励し、資格取得の為のバックアップも整えている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加した職員が勉強会の中で報告し、職員間でご利用者の人権を尊重する介護の在り方を話し合い、ホームの中でご利用者が安心して穏やかに過ごせる支援に取り組んでいる、また、職員は理念を常に意識し理念に基づいた、ご利用者の尊厳を守るケアの実践に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームから毎月1名、人材育成委員会に参加しており、職員を育てる取り組みに努めている。 また、法人内外の研修を活用し、知識や技術の習得が出来るようスキルアップの機会を設けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム全国にオンラインにて参加し、他事業の取り組みや災害時や感染症発生時の対応について学ぶ事が出来た。 また、介護支援専門員の更新研修を受講し、意見交換、資質の向上を図った。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から傾聴には気を配り、入居前にはご本人やご家族とゆっくり話せる時間を設け、不安の解消と要望の把握、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員、計画作成者が入居に至る経緯、介護の苦勞を受け止め、ご家族が抱えている不安や要望等に耳を傾けて、想いを反映させることで関係性関係性の構築に努めている。 また、必要に応じて、負担の少ない範囲内での支援協力をお願いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	ご本人の状態やご家族の要望に合わせて、 グループホーム内だけのサービスとは限 らず、訪問歯科や、訪問診療、訪問介護も 利用しており、ご利用者一人ひとりのニ ーズに合わせて対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	現有機能を活用して頂くことにより、ご本 人の意欲や活動量を高められるよう支援して いる。長年の生活で培った経験・知識を活 かし、自分らしく生活して頂けるととも に、活躍の場を持って頂く事で双方の関係 性が構築できるよう意識している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	ご家族との連絡を密にする事で、状況を理 解して頂き、共に支え合う関係性作りに努 めている。病院受診に関しても、ご家族に 協力依頼し出来ない部分を職員がサポート している。ご本人にとって、一番の心の支 えはご家族である事を伝え、病院受診等も 含めご家族と過ごす時間を、少しでも多く 取って頂けるよう依頼している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	感染症の影響から面会時の条件を付けてい る為頻度は減っているが、利用者が長年築 いてきた人間関係や、地域社会との関わり が途切れないよう友人、知人の面会時 には、ご家族の了解を得てゆっくり話しが 出来るよう配慮している。次回訪問しやす い雰囲気作りを心掛け、また来て頂ける ようお願いしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係を把握し、共通の話題や レクリエーション活動を通じて交流をサ ポートしている。 また、お互いに認め合えるような関係性の 構築が出来るよう取り組んでいる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退去後も施設や病院等に面会に行ってい る。必要に応じて相談や支援を行い、ご本 人やご家族との関係が途切れないよう取 り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員はアセスメントを活用し、ご利用者の日常生活の中から思いや意向を把握し、ご家族や関係者と話し合い、ご利用者の思いが実現出来るよう取り組んでいる。また、意向表出が難しいご利用者にも職員はあきらめずに寄り添い話しかけ、表情や仕草を観察しながら、ご利用者の思いを汲み取っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、入居前の施設や事業所から多く情報を収集し。入居後のケアに活かせるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや食事量、行動の記録を行い、希望を踏まえたその方らしい過ごし方が出来るよう職員間で検討し工夫している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の意見や要望、心配事を聞き取り、担当者会議を開き職員間で話し合い、ご利用者本位の介護計画を3カ月毎に作成している。また介護計画の実施状況や目標達成状況を定期的に確認し、その結果を踏まえて介護計画の見直しをその都度行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の生活の様子やご利用者同士の関わり方等を個別に記録し、ケアの工夫や見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を伺いながら、一人ひとりに応じた受診、訪問歯科等個々のニーズに柔軟に対応できる支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の影響から、屋内での地域行事やボランティアの来訪は現在控えているが、屋外での廃品回収や清掃活動、子ども見守り隊に参加し地域の方々と交流している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族と話し合い馴染みのかかりつけ医の受診を優先し、職員が病院に同行して、結果をご家族に伝えている。また、緊急時の医療機関の搬送や眼科・整形外科・精神科等の受診にも職員が同行、状況によりご家族の同行も協力を得ながら、充実した医療連携が図られている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	おんが中間医師会の訪問看護ステーションと契約し週1回の訪問と、必要に応じて処置や、緊急時の医療機関への搬送の指示を仰ぐ等、ご利用者が適切な看護を受けられるよう365日24時間、密接に情報共有し、連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に詳しい情報を提供し、病院との連携を図っている。入院中にもソーシャルワーカーや看護師から経過を聞き、把握できるよう努めている。また、退院前のカンファレンスに可能な限り参加しホームでの生活に繋げている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて契約時に、ご家族に希望を聞き取り、ホームで出来る支援と、病院でしか出来ない支援を説明し、承諾を得ている。ご利用者の急変や重度化に合わせ、ご家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を確認し、職員間で方針を共有し、ご利用者が安心して終末期を過ごせる環境を整えている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加し、急変時や事故発生時の対応に困感しないように努めている。ホーム内にAEDも常備している。また、マニュアルを整備し発生時に備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2カ月毎に災害対策委員会を中心に自主防災訓練を実施して昼夜想定を繰り返し、夜間2人の夜勤者が18人のご利用者全員を安全に避難場所に誘導出来るように取り組んでいる。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護委員会の内部研修に参加し、個人情報保護法や職員の守秘義務についても、職員一人ひとりが理解し周知徹底が図られている。ご利用者の個性や生活習慣に合わせたケアの実践に取り組んでいる。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との関わりの中で希望や想いを聞き、日常生活の様々な場面で自己決定できるよう支援している。 また、自己決定しやすい雰囲気作りに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの希望やペースを大切にし拒否された場合でも無理強いすることなく、ご利用者様の体調や気分に合わせて支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室の洗面台に椅子を置き、ご自分で整容出来るようにしており、常時保温機械で温めているホットタオルで顔を拭いて頂いている。 また、なるべくご本人の好みで服を選んで頂くよう努めている。 訪問理美容を利用しカットや顔剃り、カラーリングをされる方もおられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が話し合っって献立を作成し、肉、魚、野菜等新鮮な食材を発注、または毎日購入している。週1回のお弁当の日や、ご利用者から食べたいメニューのご希望を聞き、献立に入れご利用者が、食事を楽しめる支援に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を記録し、こまめな水分補給を行っている。その日の体調に合わせて、食事形態を変更する等臨機応変に対応している。また、食事摂取量が低下した場合、訪問看護へ相談や、必要に応じてかかりつけ医にも相談し受診支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、その方の状態に応じて見守りや介助を行っている。夜間は義歯洗浄を実施している。また、必要に応じて訪問歯科を依頼している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄やおむつを使用しないで済む暮らしはご利用者の生きる力を引き出すと捉え、生活パターンや生活習慣を把握し、タイミング良く声掛けして、さりげなく誘導を行い、トイレでの自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。また、オムツ・リハビリパンツ・パッドの種類をご利用者に合わせて使い分け、使用量の軽減を目指している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた献立の作成を心掛けている。散歩や体操等体を動かす事で、スムーズな排便を促している。排泄サインを見逃さず、誘導を行い排泄の失敗と不快感の軽減を図り、パッド等の使用量の削減も目指している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日週7回、午前中を基本としているが、ご利用者の希望や体調に合わせて午後から入って頂く等、湯船にゆっくり浸かってもらい、楽しい入浴になるように取り組んでいる。 入浴を拒むご利用者には、時間をずらしたり、職員が交代してタイミングを見て声掛けし、無理な場合は足浴や清拭に変更して、清潔保持に努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者一人ひとりの状態に応じて、午前・午後に休息の時間を取りれている。夜間眠れない時はお話しをしたり、温かい飲み物を提供したり、側に付き添い安心して休んで頂けるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬は管理させて頂いている。個人別に何をいつ服用しているか分かるよう一覧にしておき、職員が随時確認できるようにしている。また、薬の変更があった場合等には、申し送りノートに記入し職員間で情報を共有している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や個々にあった家事活動を通して、楽しく生活出来るよう支援している。また、ご家族の協力を得て嗜好品の提供や、ご本人の要望をお聞きして職員が代行購入している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日はホーム周辺の散歩をして頂いたり、季節毎の花見ドライブで気分転換を図っている。 グループホームの取り組み「夢かなえようプロジェクト」は現在感染症の影響で中止しているが、今後は状況に合わせて再開を検討している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルに繋がらないよう、事務所にて出納長の管理を行っている。 必要な物があれば、預かり金の中から買い物支援をさせて頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と電話でお話しをさせて頂いたり、お手紙やハガキを書かれた際にはお預かりし、ご家族の面会時にお渡しをしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が1日の大半を過ごすリビングルームは音や照明、温度や湿度、換気に注意し、仲の良いご利用者同士が談笑したり、職員と一緒にゲームや手芸、作品作り等に取り組んで頂いている。天窓からは明るい日差しが差し込み、穏やかでアットホームな雰囲気で居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の日中の過ごし方を顧慮し、リビングにソファや長椅子を配置し、気の合う方同士の談笑の場となっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご利用者やご家族と話し合い、馴染みのある筆筒や机、椅子や家族の写真等、大切な物を持ち込んで頂き、ご利用者が安心して、穏やかな気持ちで過ごせるよう、支援に取り組んでいる。居室内にはトイレと洗面台、クローゼットを設置し、ご利用者のプライバシーに配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の生活動線に合わせ、居室・トイレ・浴室に手すりを増設する等、安全に移動できるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
			○	③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		